



KITAMAE
BUNE



北前船（きたまえぶね）

北前船とは、江戸時代から明治時代にかけて、商品を売り買いしながら大阪から北海道まで日本海側を航行していた商船のことです。

北前船の船主集落である門前町の黒島は日本海航路の海運の発達に伴い有力な廻船問屋が台頭し、江戸時代前期には一社三寺を

有するほどの集落基盤を築いていました。江戸時代には順調な経済発展をとげ、明治中期まで北前船交易で大きく栄えました。

現在でも往時の船主や船頭、船乗りなどの住宅が数多く残され、周辺の自然環境と一体となって能登地方を代表する歴史的町並みが形成されています。